



成人式について

理事長 森 勉

明けましておめでとうございます。コロナ禍不安で不自由な日々をお過ごしのことと思いますが、会員の皆様と手を携えてこの災難を乗り越えたいと願っています。正月は年間16日ある国民の祝日のうちの初めに相応しい「元旦」と「成人の日」があります。「成人の日」は大人になったことを自覚し自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますものであり各自治体毎に成人式が華やかに行われています。成人式は戦後まもなく将来を担う青年達に希望を抱かせ励ますために当時の埼玉県蕨町で行われた青年祭が起源で全国に広まったようです。奈良時代以来公家や武家では成人を示す元服という儀式・通過儀礼があり、男性は15歳前後になると幼名を大人の名に改め、子供の髪型みずら（角髪）を改め大人の髪を結び、冠・烏帽子を被りました。江戸時代頃には女性も元服と称し結婚と同時に或は二十歳前に地味な着物を着、髪型を丸髻等に変え、更に厚化粧をし、お歯黒や引眉をしました。元服以降は大人として家族にそして社会に対して大きな義務と責任を負い、それぞれの立場に相応しい行動が求められました。

先日、仏国の陸軍参謀総長から頂いた三本揃いの小さな洋酒の瓶を見つけました。西欧の陸軍でも少尉任官は記念すべきことなのか、私の生まれた年・三尉に任官した年・将官に昇進した年がそれぞれの瓶に刻印されていました。私の三尉任官までの道程は、防大で4年間の理工学の勉学・厳格な規律の下の集団生活・各種運動部等の校友会活動という学生生活、卒業後久留米の幹部候補生学校で半年間の徹底的な職能教育による初級幹部としての知識技能の習得、卒業後弘前第39連隊に隊付、1月に富士学校の普通科幹部初級課程に入校し4月に任官という厳しくも思い出深い5年間の鍛錬の歳月でした。

獅子は我が子を千尋の谷底に突き落とす、可愛い子には旅をさせよ等子供を厳しく育てる格言があります。陸自の初級幹部養成においても集団生活（同じ釜の飯を食べる）で人間関係の機微を学び生涯の友を作りそして自らを能力の限界まで追い込み（地獄を覗き）一皮剥けることが大切だと言われています。最近の成人式は一部には成人としての門出を祝うというより晴れ着を競う同窓会化し時には若さを暴走させる等弊害が露わになっています。戦後は遠くなり令和の御代、成人式は形式や素養は兎も角元服や「成人の日」の大人としての責任を自覚するという原点に立ち返る時期ではないでしょうか。